

Webの作成

インターネットを使いこなせるようになると、「自分でもWebを作ってみよう」という欲求が出てくるでしょう。近年はブログ（正しくはWeblog）の普及で、個人の日記のようなWebであれば、より簡単に作成することができるようになりました。

また、掲示板を自力で作成するよりも、mixiやTwitterのような新しいコミュニティサイトを手軽に利用できるようになりました。そのため、Webを最初から作る機会は減ってきましたが、既成のWeb日記や掲示板のような形式には収まらないWeb、たとえば研究室の成果を発表するWebなどを作成するためには、やはり最初から設計・デザインして作る必要があります。

HTMLデータの作成

Webを作成するには、HTMLと呼ばれる一種の言語でデータを作成しなければなりません。ただし、最近はWYSWYG型のWeb作成ソフトとしてワープロ編集のような作業でHTMLデータを作成・編集できるソフトウェアがあります。市販品ではホームページ・ビルダーが店頭でよく売れている代表的なソフトウェアです。オンライン・ソフトでは、現時点で最も安定しているのは、Sea Monkeyという名のWebブラウザやメールソフトを統合したソフトに含まれているWeb編集機能の部分です。この部分だけをComposerと呼び、これを使って簡単にWebデータを作成することができます（<http://www.seamonkey.jp>）。またWeb編集機能だけに特化したBlue Griffonというソフトが開発中ですが、こちらは機能が最新のHTMLやXML、CSSの規格に対応していますが、それだけに操作が複雑で初心者が使いこなすのは難しいところがあります。公開中のMicrosoftのExpression Webも注目できるWeb作成ソフトです。

HTMLの理解は、特に理工系の学生やマルチメディア系の学生にとっては不可欠な知識ですので、これらの簡単なソフトを利用してWebデータを作成することには議論のあるところでは。実際に、「必ずHTMLをテキスト・エディタで書かなければならない」と指導している教員もいます。一方で、「結果的にWebができれば良い」という立場に立つ教員もいるでしょう。

また、両者の中間で基本はテキスト・エディタですが、HTMLの基本的なタグを簡単な操作で埋め込むタイプのソフトもあって、これはオンライン・ソフトとして多く出回っています。

公開の方法

ただし、HTMLでデータを作成しただけではWebとしてインターネットに公開できません。Webを公開するには、インターネット上にあるWebサーバーという特別なコンピュータ・サーバーにデータを転送し、また、そのサーバー上に自分のデータ用のスペースを確保し、なおかつ自分のアドレスをサーバーを設置した組織に登録してもらわなければなりません。

本学もそうですが、大学が学生個人にサーバーを用意し、その使用を無制限に許している場合は必ずしも多くはありません。この後で述べるような理由で、安易にWebを公開したときにそのWebの内容に対して、個々の学生に責任が発生するからです。おそらくHTMLの授業などで臨時にサーバーが用意され、担当教員の技術的かつ内容的な指導の上で公開するという運用方法を取るケースが多いようです。

したがって、もし皆さんの友人や知り合いで自分のWebを持っている人がいれば、自分の家で利用しているプロバイダが用意したWebサーバーを利用しているケースが多いでしょう。

トラブルを避けるために配慮すること

技術的に比較的簡単にできるからといって、Webやブログを安易に作成・公開するのは勧められません。Webやブログは、いったん公開すると不特定多数の人にその内容が伝わります。このことの意味と責任を十分に理解しないでWebを公開することは、非常に危険な行為です。

著作権や個人情報の保護を、しっかり理解する必要があります。また、内容が公開に値する内容か、公開したことによって迷惑を受ける人や団体がないかを常に配慮すべきです。

最近、学生の起こしやすいトラブルの一つに、こうした安易にWebやブログを公開したことが原因になっているものがあります。Webやブログ、mixi、Twitter等で書いた内容によって友人とトラブルになったり、大学やキャリア教育での実習先に大きな迷惑をかけたケースがいくつかあります。また自分の個人情報を自ら漏らして、本人が大きなトラブルに巻き込まれるケースもあります。たいていの場合、本人にはこうしたトラブルに発展するという意識が薄く、「些細な独り言のような気持ちで安易にインターネットに公開してしまったことが大きな問題の引き金になった」というケースが多いのです。何よりもインターネットは短期間で世界中にその内容が伝わってしまうという前提のうえで、その行為によって他人に迷惑や不利益を与えないかを熟慮したうえで利用しなければなりません。